

## 種茎直播桑園の収量推移

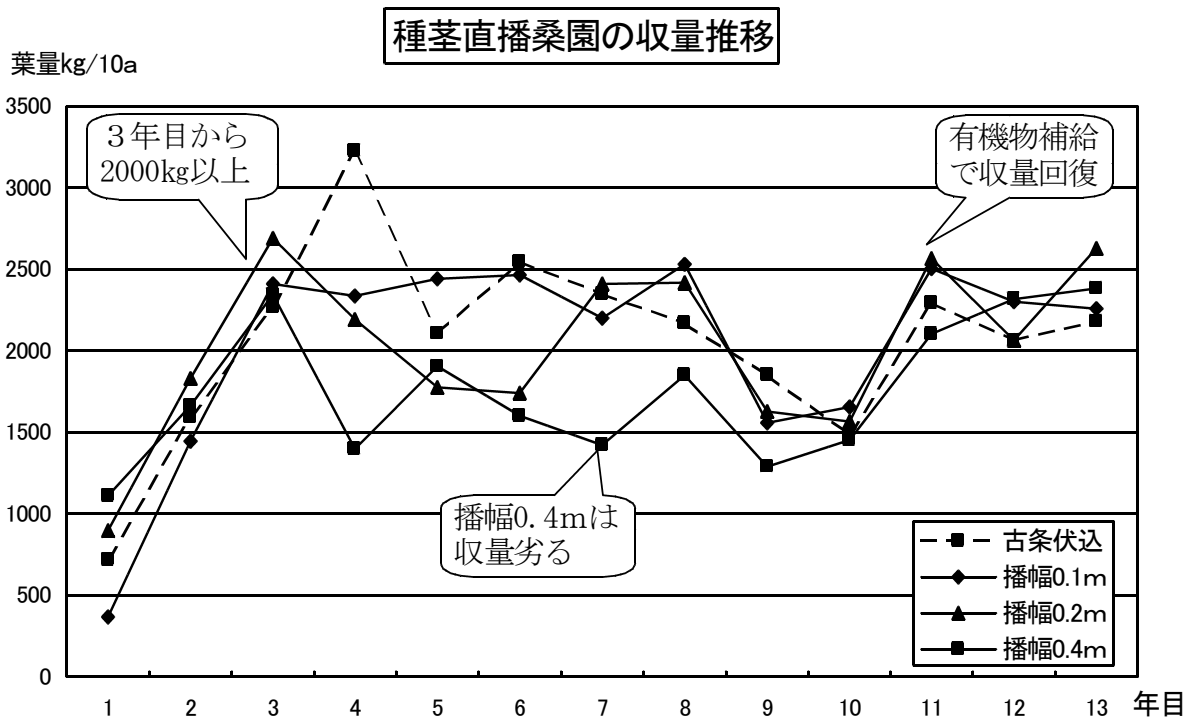
蚕業試験場

### 1 取り上げた理由

種茎直播法に関する試験は東北各県で行われ、主に造成法についての様々な技術が確立されている。しかし造成後の経時的収量の推移についての報告は少ない。そこで昭和62（1987）年に当試験場で造成した種茎直播桑園の収量を13年間調査したので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 1～3年目は、播幅が広いほど平均枝条長や畦1m当たり枝条数が多く、収量も高い。4年目以降は、平均枝条長や畦1m当たり枝条数に区間差がなくなり、10a当たり畦長の短い播幅0.4mの収量が劣る。
- 2) 9～10年目に各区の収量が低下するが、11年目有機物の補給により回復が見られる。
- 3) 13年間の合計収量は、対照を100とすると、播幅0.1mでは99、播幅0.2mでは98、播幅0.4mでは85の指数となる。
- 4) 種茎直播法で桑園を造成するとき、種茎の播幅は0.1～0.2mとするのが収量面から見て有利である。また、収量維持のため造成後有機物を補給する。



### 3 利活用の留意点

- 1) 夏蚕期収穫後は雑草が特に繁茂しやすいので防除を徹底する。

(問い合わせ先：蚕業試験場蚕業技術班 電話0 2 2 3-3 4-1 2 1 1)

#### 4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 超多回育養蚕に対応した桑栽培技術の確立 昭和62～平成11年度
- 2) 参考データ

表－1 試験区概要

試験区は畦間は1.0m，播幅を0.1～0.4mで3区から成る。品種は「しんけんもち」を用い，種茎は，播種密度30本／㎡となるよう散布している。古条伏込を対照とし，13年間収量の推移を見る。また，各区とも造成時に有機物（廃条堆肥）を10 a 当たり5,000kg施用し，5年目に2,000kg，11年目に1,500kgを畦間に補給している。

収穫は春切法で，1年目は晩秋蚕期基部50cm残し伐採，2年目以降は夏蚕期基部30cm残し，晩秋蚕期再発枝2葉残し伐採としている。

表－2 年次別収量（葉量，有機物補給区）

（単位：kg／10 a）

試験区	1年目 (S62)	2年目 (S63)	3年目 (H1)	4年目 (H2)	5年目 (H3)	6年目 (H4)	7年目 (H5)	8年目 (H6)
古条伏込	718	1,593	2,264	3,226	2,105	2,545	2,346	2,167
播幅0.1m	367	1,445	2,408	2,337	2,441	2,463	2,199	2,532
播幅0.2m	894	1,830	2,691	2,190	1,776	1,741	2,411	2,418
播幅0.4m	1,110	1,661	2,345	1,396	1,905	1,602	1,421	1,849

試験区	9年目 (H7)	10年目 (H8)	11年目 (H9)	12年目 (H10)	13年目 (H11)	合計	指数
古条伏込	1,855	1,485	2,294	2,062	2,179	26,839	100
播幅0.1m	1,556	1,654	2,504	2,302	2,259	26,467	99
播幅0.2m	1,629	1,566	2,564	2,064	2,628	26,402	98
播幅0.4m	1,288	1,453	2,104	2,318	2,383	22,835	85

#### 3) 発表論文等

東北農業研究第51号

平成10年度研究成果情報（東北農業）

宮城県蚕業試験場蚕桑要報第23号